海の研究 (Oceanography in Japan), **15** (4), 367 – 368, 2006

— 寄 稿 —

日本海洋学会事務局の変遷 *

大塚 一志 †

日本海洋学会事務局は, 20 年間にわたり慣れ親しんで来たMKビル202号室から, 2006年3月末日をもって完全退去し, 4月1日からは学会誌「海の研究」の編集業務は東京大学海洋研究所内において行なわれることになった。なお, 既に学会の業務全般は (株) 毎日ビジネスサポート 毎日学会フォーラムに委託して行なわれている。そこで, この機会に学会事務局の変遷を簡単に振り返ってみたい。

1941年 (昭和16年) 学会創設時の学会事務局は中央気象台 (岡田 武松台長, 初代会長) に置かれ, 翌年5月に「日本海洋学会誌」第1巻が刊行された。その直後, 新設された東京帝国大学 地球物理学科 海洋学講座 (日高 孝次教授) に移り, 第2巻が刊行された。そして, 再び事務局は中央気象台に移り第3巻〜第5巻が刊行された。この間, 太平洋戦争激化のため1944年の第4巻第1号の発刊後は休止状態となり, 敗戦4年後の1949年8月になって第5巻第1号が刊行された。1950年から3年間は宇田 道隆 (1961) が所長であった水産庁 東海区水産研究所に移ったが, 1953年から2年間は中央気象台に戻った。

しかし, それらはあくまで学会誌の奥付に記載されている形式的な事務局の変遷であったようだ。実際には, 定まった事務局は存在せず, 庶務, 会計, 編集幹事が所属していた中央気象台 (現在の気象庁), 海上保安庁 水路部 (現在の海洋情報部), 水産庁 東海区水産研究所 (現在の中央水産研究所) 等に分散して事務処理が行なわれていたと, 増澤 譲太郎 (1992) は述べている。

日高孝次 (1961) によると, 学会設立当時に事務を担当したのは当時30代であった宇田 道隆, 三宅 泰雄, 新野 弘, 末広 恭雄, 木村 喜之助, 稲葉 傳三郎の方々だったとのことである。

1941年の学会創設時から, 海洋学の普及と啓蒙を目的とする月刊誌「海洋の科学」が刊行されていた。編集事務所を当初は地人書館内に, 次いで神田のキリスト教同盟会館内に移したと, 編集責任者の三宅 泰雄 (1961) は述べている。

1955年からの10年間は, 事務局が東京大学地球物理学教室に置かれ, 専属職員によって学会の事務処理がようやく組織的に行なわれるようになった。

1964年には, 一時的に学会事務局が東京大学理学部3号館415号室に所在した後, 誕生して間もない東京大学海洋研究所内に移転した。

官庁舎内に学会事務局を置くことが規制強化で難しくなってから, 1981年1月に京王バスの東大附属前バス停から150 mほど奥に入った中野区南台2–23–14ヴィラ南台荘302号室に移転して, 4年間学会活動の拠点となった。しかし, 立地条件と室内が狭いことな

* 2006年2月14日受領; 2006年3月1日受理
著作権: 日本海洋学会, 2006
† 〒245–0016 横浜市泉区和泉町 6212–10–301
著者 e-mail address : kazuyuki.otsuka@nifty.com

どから学会事務局としては不適当なために，移転が検討された。

1985年5月，当時の平 啓介庶務幹事らのお骨折りで，学会事務局となった中野区南台1–6–14 MKビル202号室は，その後20年間にわたって使用を続けた。しかし，1996年7月に会費納入，入退会，住所変更，学会誌発送，会計業務を業務委託した(財)日本学会事務センター(平，2002)が2004年8月に破産したことを契機に，すべての学会事務業務を(株)毎日ビジネスサポート 毎日学会フォーラムへ委託することになり，ついに学会事務局の存在は幕を閉じることになった。

1955年以降，学会の事務局員として学会活動を支えて下さった上原 満里，村上 淑子，福井 弘子，米澤 光雄，吉川 薫，吉田 弘子，草郷 福子，小谷 昭，山口 満智子の方々に対して，この機会に深く感謝申し上げたい(増澤，1992; 平，1992)。

学会創設50周年を機に，学会誌は“Journal of Oceanography”と「海の研究」の二種を刊行することとなった。「海の研究」誌は印刷費をできるだけ節減するため，福岡 二郎，大和田 守，堀部 純男，關 文威の歴代編集委員長のもと，中井 俊介，朝岡 治，須藤 英雄，鷺 猛，大塚 一志ら定年後の編集委員が学会事務局に設置された2〜3台のパソコンによって編集作業に従事して来た。当初は組版ソフト“WinTeX”を用いて，その後は進化したソフト“pLaTeX 2_ε for Windows”を用いて，版下作成作業を行なうため，学会事務局をよく利用して来た。なお，近年は電子メールを大いに活用して，自宅のパソコンで版下作成作業を行なう割合が増えている。

今後，「海の研究」誌編集委員会の業務は，東京大学海洋研究所の一室をお借りして行なわれる予定である。

文献

日高 孝次 (1961): 日本海洋学会20年の思い出．日本海洋学会20年の歩み, 129–130.

増澤 譲太郎 (1992): 日本海洋学会50年史．海の研究, **1**, 1–13.

三宅 泰雄 (1961): 「海洋の科学」の思い出．日本海洋学会20年の歩み, 156–157.

平 啓介 (1992): 日本海洋学会創立50周年記念事業報告．海の研究, **1**, 219–221.

平 啓介 (2002): 日本海洋学会10年(1991〜2000年)の歩み．海の研究,**11**, 1–7.

宇田 道隆 (1961): 日本海洋学会20年史．日本海洋学会20年の歩み, 1–16.